

教授・医局長挨拶

[HOMEに戻る](#)

教授挨拶

神戸大学医学部麻酔学講座は今年開講47年目を迎えました。神戸大学麻酔科は、“麻酔は手術中の麻酔管理だけでなく手術前の管理(術前評価)と集中治療を含めた術後管理を考えて行ってこそ麻酔である”と教育する伝統と、“新しい知識および技術をいつも取り入れ常に革新しどんな状況にでも対応できる人材を育成すること”を目標として日々努力し精進しています。

1.常に考える麻酔管理

麻酔は、手術という生体への侵襲からからだを護るために行われます。生体への侵襲はからだの中で様々な変化を起こします。出血や尿量の変化など目に見えるものもあれば、血糖やホルモンの変化など目に見えないものもあります。元々、生体は外的な侵襲から自己を防御するという手段を身につけていますが、必要以上に侵襲が加わると生体のすべての臓器や機能は耐えきれなくなり細胞は破綻していくことになります。我々は、病気や機能を治すために行われる手術という通常の状態では耐えられない侵襲から、如何に生体を護るかを常に考え患者様を護るために日々麻酔管理をしています。

2.社会に貢献できる麻酔科医の育成

近年、医療技術は目覚ましい進歩を遂げ、再生医療や移植医療の実現でこれまで治療が困難であった患者様が救命できるようになりました。麻酔科学の分野でも、新しい麻酔薬や生体モニターの開発と新しい麻酔技術の進歩などにより、高齢の方や多くの合併症を持った方などこれまで行われなかった方の手術ができるようになっていきます。一方、このようないわゆるリスクの高い症例の管理は専門的な知識が必要であり、我々麻酔科医の重要性が改めて認識される時代になっています。神戸大学では、高い専門性を持って社会に貢献できる麻酔科医の育成を心がけています。

3.「みんなで」、目指すところ

神戸大学医学部麻酔学講座(現 神戸大学大学院医学研究科外科系講座麻酔科学分野)は、昭和43年1月に故岩井誠三先生により開講されました。その後、尾原秀史先生、前川信博先生が教室を主宰され、これまで多くの優秀な医療人を育て、診療、研究、教育のすべての分野で多くの業績を残し、社会に大きく貢献して参りました。私は、平成25年10月1日より神戸大学大学院医学研究科麻酔科学分野教授を拝命し教室を主宰しております。現在1年半が経ちますが、あっという間の時間でした。教室を主宰した当初から、良き教室員と同門の先生方、神戸大学病院他科の多くの先生方、看護師さん、技師さん、事務の方々、近隣医療施設の先生方のおかげで、スムーズに仕事が始まることができています。大学として高度な医療、高度な手術を患者様に安全に提供させて頂くのはもちろんのこと、我々はすべての患者様のために、常に新しい技術を取り入れつつ、手術がもたらすあらゆる侵襲から生体を護ることを考え日々努力しています。また、これらの知識や技術により、重症患者様を一人でも多く回復させること(集中治療)、そしてあらゆる痛みから患者様を少しでも解放すること(ペインクリニック)を目指しています。さらに、これからの医療を担う若い人々の育成と教育に加え、最適な麻酔法や痛みの治療法の開発などの研究を行うことも含め、広い視点から教室を運営したいと考えています。

これまでの神戸大学麻酔科の歴史と伝統を守りつつ、国際都市・神戸の地で多くの麻酔科医が学び育っていける麻酔科学教室を創り、多くの患者様のお役に立てればと考えています。まだまだ課題は多いですが、今後どうぞよろしくお願い致します。

平成27年4月

神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 麻酔科学分野 教授
溝淵 知司



教授:溝淵 知司

[HOMEに戻る](#)